

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500064		
法人名	株式会社 インテント		
事業所名	グループホーム いろは		
所在地	宮崎県小林市細野2283-3		
自己評価作成日	平成29年11月3日	評価結果市町村受理日	平成30年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaipokensaku_mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihontrue&jiyosyoCd=4590500064-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成29年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念をもとに、入居者様の尊厳や個性を大切に、一人ひとりの入居者様が自分らしく安心して穏やかに生活できるよう、コミュニケーションを大切にしています。取り組みとしては、毎日の記録に会話内容、気分の変化を記入し、ご本人が何を感じ、何を求めているかを知ること、その思いを受け入れられるような対応をケアプランに反映させています。また、日々の生活の中でその方ができること、得意なことを見つけ、お手伝いをして頂き喜ばれることで自信を取り戻し、張りのある生活ができるようなケアを心掛けています。
認知症のケアとしては、竹内認知症ケアを実践し、認知症状が少しでも改善されその方がより自分らしく生活できるよう努力しています。
また、職員育成の一環として清掃の徹底、感謝の気持ちを持って職員間で良い関係が築けるようサンクスカードの活用等、職場環境の改善などにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の理念である「自分のペースで自分らしく、安心して、地域や人(子ども)と穏やかに過ごす」を職員は理解し実践につなげている。管理者は替わったばかりではあるが、職員との関係作りにも努めている。地域とのつながりにも取り組み、災害訓練への参加、茶話会の実施が行われている。研修会へも参加し職員育成にも心掛けている。認知症ケアでは、地域を通じて力を入れている「竹内認知症ケア」を実践し取り組んでいる。研修会にも参加し、職員教育にも努めている。
利用者は、自分でできることはなるべく自分でいながら、自分のペースでゆったりと穏やかに生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『入居者様が自分のペースで自分らしく生活できるよう、その方の尊厳を守り、安心して穏やかに毎日を過ごして頂く』ことを理念にあげ、毎日の朝礼で唱和し職員全員で理念を共有している。	「自分のペースで自分らしく、安心して穏やかに、地域や人とふれあう生活」を理念に利用者一人ひとりのペースを大切に、職員は手帳も持参し、毎朝唱和することで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際は地域の方々に積極的に挨拶をしている。また、花見や夕涼み会、避難訓練等、行事に地域の方々に招待し参加して頂くことで交流を深めている。	日常的な散歩の際には挨拶をしている。ホームの花見や夕涼み会への参加も呼びかけ、避難訓練にも参加をしてもらい日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの受け入れを通じ、施設での入居者様の生活を実際に見て頂いたり、お話を頂くことで、認知症の方に対する理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や生活状況、行事への取り組みについて報告している。また、頂いた意見に対しては、更なるサービスの向上に活かしている。今年は入居者様と地域の方々との交流を深めるために、今まで施設だけで行っていた行事等へ招待し参加して頂いた。	運営推進会議では利用者の生活状況などの報告を行っている。茶話会のアイデアを頂き来週行うことになっている。会議での助言を生かした取組も行なわれているが、家族への報告や具体的な内容を記録する取組が行われていない。	ホームとしての方向性に対する取組や家族への報告、具体的な内容の記録などを行いサービスの向上に生かせる取組が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、施設の状況を報告している。また、地域連絡協議会等に参加し、意見交換を行っている。	随時連絡を取り分らないことなどを聞いているが、管理者が替わったばかりということもあり、日常的な連絡、関係作りができていないと言いはし難い。	関係作りができていないことを踏まえ、積極的に関わり、顔を知ってもらえるような協力関係を築くことに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、全職員で知識を共有している。安易に玄関の施錠はせず、見守りにて対応している。	年間計画の中でも勉強会を行っている。施錠せず見守り、声掛けにて対応している。言葉の拘束にも十分気をつけ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、全職員で知識を共有している。また、職員に対しても、心身のストレスを回避するため、希望休や有給休暇を取りやすい雰囲気作り、職員に負担の少ないシフト作成をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が安心サポートセンターを利用されている。今後、必要性があれば成年後見人制度も活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすいよう説明している。また、不明な点は契約時に確認し、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見や要望を聴いている。園外活動や外食等は入居者や家族の意見を尊重しながら行っている。	家族にも分かりやすいよう玄関に職員の写真を掲示し園便りにも担当者を載せている。利用者の制限食に関しても家族の要望で本人の好きなようにとの意見を尊重し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会や毎日の朝礼等で挙げた意見を運営に反映させている。	職員会議時や朝礼時に職員の意見を聞き出している。管理者、職員間の関係作りもできており処遇改善の話等も行い、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与・昇給・処遇改善加算等についての勉強会を実施し周知している。また、人事考課制度を取り入れ評価することでモチベーションアップに繋げている。偶数月には職員同士のコミュニケーション会を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得のための休暇の確保や勤務調整をすることにより、参加しやすい環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修等に参加し、他施設との意見交換や交流ができるような場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人、またはご家族の方に施設見学をして頂き、入居者・職員・施設の雰囲気を確認して頂いている。また、不安や要望等を十分聴き信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っていること、要望等を傾聴し、思いを受け止めることで安心して頂き、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望をよく聴き、日常生活の中で何がその方にとって必要なサービスなのかを見極め、安心して生活して頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『ご自分でできることはして頂く』ことを基本とし、それぞれの能力に応じたお手伝いや役割を持って頂いている。また、感謝の気持ちや労いの言葉を伝えることで、暮らしを共にする者同士の良好な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を第一に考え、ご本人にとってどのようなケアが必要かをご家族とともに考え、協力を頂きながらご本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅中に利用されていた行きつけの美容室やレストラン、会社や自宅にお連れするなどの支援を行っている。	なじみの理美容室の利用やお墓参りの支援を行っている。会社社長だった利用者には会社に行くなど関係継続の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者同士関係を把握し、入居者同士が関わりやすい環境の提供や声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先への細かい情報提供を行っている。また、退所時にはご家族へ必要時はいつでも相談して頂くよう話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望を大切に、日々の会話の中で把握したことを記録に残し、本人本位のサービスの提供を行っている。	利用者一人ひとりに合った接し方を行い日々の会話の中から意向を把握し記録に残し、本人本位のサービスの提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限りご本人やご家族から聞き取りを行い、また、必要に応じ以前のケアマネジャーからの情報収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを通じ、その方の心身状況や能力の把握に努め1日の流れや気分の変化等を記録に残し支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングをもとに、ご家族・ご本人の意見も聞きながら介護計画を作成している。	担当制でありモニタリングを毎月行っている。来訪できる家族には来ていただき話し合いの場を設けている。担当者、家族などの意見を反映し現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の行動や、発せられる言葉を具体的に記録に残し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しやケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにも柔軟な対応ができるよう、多職種連携に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをはじめ、出張理・美容院の依頼、消防隊員による避難訓練や心肺蘇生法の実技指導等、安全で豊かな暮らしができるよう地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医への定期的な受診支援が行われている。緊急時などは職員で対応し、適切な医療が受けられる支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎日の心身状態の把握に努め、異常に気付いたらすぐに看護師へ報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して医療を受けられるよう、病院への情報提供を詳しく行っている。また、入院中も面会に行き、病院関係者と情報交換を行いながら良好な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについては、契約時にできることとできないことを説明し、ご家族の同意を得ている。	看取りは行わず、重度化した場合の対応においても契約時に説明し、同意を得ている。重度化した場合にはその都度、家族と話し合いを行い救急病院等での対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルを作成し全職員が周知している。また、年に1回、救急隊員による心肺蘇生法の実地指導訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行い入居者の安全な避難方法やルートの確認・通報訓練を行っている。また、消防署・警備会社をはじめ、地域住民の方々にも呼びかけ、参加して頂いている。	避難訓練は年2回実施している。防災訓練に地域住民も参加し避難誘導を行ってもらっている。消防団の協力もあり地域との協力体制作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、認知症であっても赤ちゃん言葉を遣わない等、人生の大先輩だという気持ちを持って接するよう、勉強会等で周知している。また、お互いが注意し合えるような雰囲気作りにも努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いには十分に気を付けている。日常的にも職員間で注意し合い、その都度対応している。入浴時や排せつ時の対応にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや要望を自由に言えるような雰囲気作りに努め、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『自分のペースで自分らしい生活を送る』と理念にも掲げているように、一人ひとりがその方に合ったペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅で生活されていた頃から利用されていた美容室で散髪や染髪をされたり、衣類の買い物、髭剃り(職員による手剃り)等、その方の要望に沿った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で取れる野菜に興味を持って頂き、一緒に成長を楽しみ収穫し、可能な方は収穫した野菜の切り込みをして頂く等、食事が楽しくなるよう支援している。また、入居者の希望で献立を変更することもある。	菜園で取れた野菜を利用している。栄養士により献立が立てられている。利用者は職員の見守り中、自力で食べ、自分のペースで食事をとっている。状態に合わせて食形態も変わっている。職員のさりげない介助にて食事を楽しむ支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により栄養バランスの良い献立を作成し、個々の食事・水分の摂取状況をチェックしている。水分摂取に関しては1500ccを目標とし、好みや在宅時の習慣にも配慮した支援を行っている。(水分制限のある方以外)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し誘導している。その方の排泄のサインを見逃さないよう、声かけすることでトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	排せつチェック表を利用して声掛け誘導を行い、全員日中トイレでの排せつを行っている。リハビリパンツから布パンツに変わった利用者もおり自立に向けた支に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保、運動や散歩、食物繊維を多く含む食事の提供で自然排便を促す取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの体力や希望に沿った入浴を提供している。また、ゆっくり入浴できるよう、1対1入浴としている。	毎日午後に入浴を行っている。利用者は1日おきに入浴し、1対1での入浴で浴槽にも浸かっている。季節に応じて柚子風呂等も楽しんでいる。入浴を拒む方には声掛けの工夫で対応し、個々に応じた入浴を楽しむ支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、その方の体力等にも考慮しながら休む時間を調整したり、心地よく安眠できるよう、室温管理や寝具の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の目的・副作用・用量等については、ほぼ理解している。配薬についてはセットした時の確認、渡す際の声出し確認をし、誤薬や飲み忘れのないよう努めている。状態の変化が認められる時はすぐに看護師、医師に報告し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に行き気分転換を図ったり、レクリエーションで得意分野のゲームや歌を取り入れるなど工夫し、日々を楽しく過ごせるよう支援している。また、その方のできる役割やお手伝いなどをして頂くことで自信と喜びを感じて頂き、張りのある生活を送って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と職員が協力し合いながら、外食や墓参り、買い物や娯楽(ゴルフ)などの外出支援を行っている。	日常的に近くの公園まで散歩を行っている。天気の良い日はデッキにてランチを取ることもある。紅葉やコスモスを見に行ったり、食事をしにドライブに出掛ける事もあり、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持したいとの希望がある場合は、ご家族と相談のうえ、小遣い程度のお金を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族や知人に電話の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は常に清潔にし、季節感のある花や室内装飾を行い、リビングから見える菜園には季節の野菜を植えるなどし、成長や収穫を楽しめる環境を整備すると同時に、季節感も感じて頂いている。	共用空間は日当たりも良く、リビングから菜園も見られ季節感が感じられる。空調、湿度にも気を付け、ソファの位置等も工夫し利用者がゆったりと居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子を置き、自由に過ごして頂けるようにしている。また、和室にもテレビを置き、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には在宅で使われていた家具や馴染みの物が置かれている。また、ご家族との写真や仏壇・位牌等も持って来られ、プライバシーを大切に、安心して過ごせる環境を提供している。	居室にはなじみのあるたんすや家具が持ち込まれている。仏壇や位牌を持ってこられている利用者もいる。女性では手鏡やくしを持参し、利用者それぞれが居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人ができること、できないことを把握しその方の行動を見守り、安全且つ自立した生活が送れるよう工夫している。		